

講演会及び研究集会の記録

平成25年度弘前大学高大連携シンポジウム

テーマ「キャリア教育における高大連携の模索 —高校が考えるキャリア教育、大学が考えるキャリア教育—

21世紀教育センター 田中正弘

本学では、21世紀教育センターの主催で、高校との連携の在り方を考える高大連携シンポジウムを、毎年開催しています。このシンポジウムでは、英語教育や理科教育の在り方、作文指導の方法および国際化など多岐にわたるトピックを取り上げてきました。本年度のテーマは、「キャリア教育」です。このテーマ設定の趣旨は、シンポジウムの冒頭に21世紀教育センターFD・広報専門委員長の戸塚学先生が説明されました。具体的には、中教審の答申（平成23年1月31日）において、生涯にわたるキャリア形成を支援する観点で校種や業界の垣根を越えた連携の重要性が提言されたことや、高校・大学・企業から、キャリア教育に精通した6人の先生を招聘した理由などが述べられました。

21世紀教育センター長、木村宣美先生の開会挨拶に続き、青森県教育庁学校教育課高等学校指導グループ指導主事の嵯峨弘章先生に、「青森県におけるキャリア教育」というタイトルで、ご講演をいただきました。



嵯峨先生のご講演では、キャリア教育が必要となった背景と課題や、青森県が目指すキャリア教育について、示されました。また、キャリア教育には、「縦」（高大連携）だけでなく、「横」（家庭・企業・地域連携）のつながりが必要であると強調されました。

次に、青森県立青森高等学校進路指導主事の奈須下晃先生に、「青森高校におけるキャリア教育の取組」についてご講演いただきました。例えば、テーマ別の



課題研究に力を入れていることや、青校祭クラス対抗ダンスコンテストでクラスの団結を深めていることが紹介されました。加えて、それぞれの取組で如何なる基礎的・汎用的能力を伸ばそうとしているかも図表で示されました。

三番目の登壇者は、青森県立六カ所高等学校の進路指導主事をされている尾崎恵子先生でした。



ご講演では、六カ所高校の地域特性（生徒の約8割が村内出身）から、「外の世界を見る機会を与えた上で、進路決定」を行う必要性が唱えられました。そして、国際交流の試みについて、キャリア教育の観点から、説明がありました。

大学における実践例として、学生就職支援センター副センター長の小磯重隆先生、人文学部教授の森樹男先生に、それぞれご発表いただきました。小磯先生は、

ご担当なされているキャリア教育科目「社会と私」の学習成果を高める目的で、アクティブ・ラーニングの手法を用いているとのことでした。森先生は、「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」(H24-26)に採択された本学の取組「地域企業と実践する課題解決型学習による主体的な学びプログラムの構築」の活動内容を話されました。

最後のご講演は、企業側の立場を代表された、特定非営利活動法人プラットフォームあおもり代表の米田大吉先生が担当されました。



企業側の本音を軽快に説明される米田先生のペースに、参加者の多くは魅了されてしまいました。

シンポジウムの第2部は、総括討論でした。6名のパネリストが一列に並び、参加者からの旺盛な質問に答える形となりました。



参加者からの質問には、例えば、青森県のキャリア教育の指針にあるキーワード「つながる力」について、その具体的な実施例を聞かせてほしいというものや、アクティブ・ラーニングを高校で行うことは可能か、というものがありました。

パネリストの意見交換では、キャリア教育における高大連携の在り方を議論しました。嵯峨先生からは、キャリア教育の大学への浸透度のご質問がありまし

た。このご質問への発展的な回答として、森先生からは、生徒・学生は明確な進路希望をいつ決めるべきなのか、という認識の擦り合わせを、高校と大学が行うべきだという提案がありました。この提案への回答として、那須下先生は、生徒と頻繁な二者面談をすることで、将来の進路希望を定めていく重要性が述べられました。米田先生からは、企業側の立場から、大学進学(学問領域)を定めるときは、将来の就職ビジョンを明確にしておいてほしいという要望が出されました。

尾崎先生からは、都市部から離れた、周りに大学のない周辺部の高校に対して、キャンパスツアーを実施してほしいという希望が出されました。特に、大学生との交流が、これらの高校に通う生徒にとって、大学進学を考え始める契機になり得るという点は、貴重な示唆を含むと思われます。

高校生からの質問として、働くということについて高校生が意識すべきだと思うことを教えてほしい、というものがありました。この質問に対する米田先生のお答えは、ゴールを定めてみることでした。

最後に、佐藤学長から総括的な質問がありました。特に、明確な将来のゴールを早い段階で定めることは重要であると、ご指摘なさいました。また、再教育の場としての大学という考え方も、キャリア教育という観点から必要であるという提案もされました。



閉会の挨拶として、戸塚先生から、参加してくれた高校生へのメッセージとして、自分の夢をはぐくんでほしいという言葉いただきました。

今年度の高大連携シンポジウムは、キャリア教育は高校や大学だけで完結できるものでないということを再確認する良い機会となりました。個々の学校で実施されている優れた取組が、線としてつながった時に、その効果は最大化されるのだと思います。

以上